



定年退職予定者への就職援護説明会開催

自衛隊埼玉地方協力本部（本部長：山下真司一等空佐）は令和二年十一月十九日（木）、埼玉地域援護センター（大宮駐屯地内）で、今年度三回目となる定年退職予定隊員就職援護説明会を開催した。

今回の説明会は令和三年十月から十二月までの間に定年退職する幹部（二佐以下）と准曹を対象にしたもので、埼玉県内に就職を希望する六名の隊員が参加し、現在の雇用情勢をはじめとした、若年定年者の再就職を取り巻く環境についての理解促進を図った他、就職援護の要領について説明した。その後、援護センター員と自衛隊援護協会東京支部主幹が各退職予定隊員と個別に面談し、それぞれの希望を確認しながら、再就職に向けての取り組み方や適職に関する情報を提供した。

参加した隊員からは、再就職活動に向けての心構えと意識改革ができ、大変参考になったとの声が多数寄せられた。

埼玉地本では、今後も退職予定隊員に親身に向き合い、退職後の生活の安定に寄与する質の高い援護を目指してまいります。



市街地広報活動実施

埼玉地方協力本部（本部長 山下一等空佐）は、令和二年十一月二十日（金）さいたま市大宮区鐘塚公園において、大宮駐屯地に所在する中央特殊武器防護隊及び第126地区警務隊大宮派遣隊の支援を受け市街地広報イベントを実施した。

本イベントは、自衛隊への理解を深めてもらうとともに自衛官募集PRという趣旨のもと開催し、当日は約300名の募集対象者でにぎわった。

新型コロナウイルス感染対策として、ソーシャルディスタンスの確保やマスク着用等、「新しい生活様式」に則つとり実施した。

会場では、高機動車や化学器材等の装備品の展示を行った。隊員の説明に熱心に耳を傾けていた参加者から「これは何の為に使うのですか」「早く乗ってみたい！」等様々な感想が聞かれた。

重さ約20kgの背のう体験では、参加者からは「予想以上に重かった。私も訓練すれば背負えるようになりますか」といった声が聞かれ、終始会場は盛り上がりがあった。

埼玉地本では、今後もコロナ対策に万全を期しながら、各種イベント等を通じて良質な人材の確保に引き続き努めていきたいとしている。

